

鹿児島県鹿屋市串良町の星ヶ丘開拓は、大隅半島の中央部に位置する標高 50m程の温暖な地だ。

戦中は、教育航空隊の串良基地があり、戦争末期には特別攻撃隊の基地として使用された。終戦を迎えるまでに、363名の特別攻撃隊員と210名の一般攻撃隊員がこの地から飛び立ち、その若く尊い命が失われた。

終戦後、基地の用地など480haが開墾されることとなり、引揚者や戦災者など、多くの人が入植した。

元飛行場ということもあり、土壌は硬く、性質の良いものとは言えなかった。作付けしたサツマイモは、何年も小指くらいにしか育たず、厳しい状況が続いた。

地区ごとに星ヶ丘、共栄、辰喰など10の帰農組合が設立された。しかし、台風による度重なる被害などもあり、帰農組合では運営が困難になったことから、58年に星ヶ丘地区を除き串良開拓農協として統合することとなった。

畜産にシフトする生産者が増加し、酪農は大変な努力の末に、鹿屋市は県内有数の酪農地帯として発展することとなった。また、肉用牛生産にも力が注がれることになっていった。

現在も、薩州開拓農協の組合員により肉牛生産が行われており、畜産が盛んである。

一方、畑作も徐々に伸びていった。用水路を碁盤の目のように整備したり、道路などのインフラ整備を着実に進めていくことで、メロンや花木の栽培も発展していった。

串良平和公園には、戦争で亡くなった方々を祀る慰霊塔が建てられている。74年、この公園内に開拓記念碑が建てられ、慰霊塔とともに、この地を見守っている。

星ヶ丘 46-203-1

- ①調査日 平成 30 年
- ②所在 肝属郡串良町有里
- ③地区の沿革 碑文に記載。
- ④設置年月日 昭和 49 年 10 月吉日
- ⑤設置者 建設委員 5 名
- ⑥碑文（表面）

開拓記念碑

太平洋戦争末期串良海軍航空隊が開設サレ、終戦直後引揚者、戦災者ガ鋤一ツ持タズニ入植、家モナク兵舎、防空壕ヲ利用シ、食糧ノ自給自足ノタメ飛行場関係用地 480 ヘクタールノ開墾ガ始マル、開拓組合トシテソノ機能が充分発揮出来ル様ニスルタメ地区毎ニ 25 戸ヲ単位トシテ帰農組合（星ヶ丘、共栄辰喰、栄、東花、新堀、新中堀、水々元、大塚原富郷、麓、矢柄）ヲ設立（当時約 400 戸）

シカシ度重ナル台風ノ被害等モアツテ帰農組合デハ其運営ガ困難ニナリ星ヶ丘ヲ除イテ昭和 31 年 9 月串良開拓共同組合トシニ合併統合シ事務所ヲ牧場内ニ設置星ヶ丘開拓組合モ事務ノ分ヲ昭和 38 年ニ統合サレル現在組合員戸数 104 戸星ヶ丘 10 戸コノ間国ノ補助事業ニヨリエンタイ壕ノ除去段畑ノ整地土壤改良事業耕運機導入、水道増設、道路整備、電気導入事業付帯事業トシテ 13 塚線及び高松道路改良事業、婦人ホームノ設置（現在医療機関トシテ山崎医院開設）小中学校ノ学級増設等ノ事業ガ施行サレタ、組合員ニハ一時政府資金償還モ困難ナ状態モアッタガ、関係機関団体ノ御指導ト御協力ニ依リ組合員各位モ幾多ノ辛苦ニ耐エ現在デハ既存農家並ノ経営状態ニナリ国ノ施策ト相俟ッテ解散スルノデ之ヲ永遠ニ記念スルタメ開拓記念碑ヲ建立スルモノデアル

昭和 49 年 10 月吉日

- ⑦碑文（裏面） 不明

⑧現在の状況

星ヶ丘地区は、現在薩州開拓組合員がおり、畜産が盛んである。鹿屋市串良町平和公園内に記念碑が設立されている。